

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

この会報が皆様のお手元に届くのは、米国や英国の3歳クラシック緒戦が目前に迫った頃だ。先月と先々月のこのコラムで、米国のケンタッキーダービーを狙う二人の大家調教師を紹介したが、そうなるに、英国のクラシックを狙う欧州の大家調教師を紹介しないわけにはいくまい。そして、件のビッグネームをこの場で取り上げるには絶好の機会が今、訪れているのである。

と、言うのも、この原稿を書いている4月11日の段階で、牡馬の二千ギニー(5月2日)とダービー(6月6日)、牝馬の千ギニー(5月3日)、オークス(6月5日)という、春の3歳クラシック4競走全てにおいて、ブックメーカーが売り出す前売り馬券で一番人気の座にあるのは、その男の管理馬なのだ。春の英国クラシック完全制覇を目論む男こそ、今回のこのコラムの主役であるエイダン・オブライエン(45歳)である。

96年に弱冠26歳にして欧州を代表する競馬と生産の組織「クールモアグループ」の主戦調教師に指名され、クールモアの調教拠点である、ハリードイルで陣頭指揮をとっているのがオブライエンだ。ハリードイルにおける彼の前任者が、70年の3歳馬ニジンスキーをはじめとして数多の名馬を育てたヴァインセント・オブライエンで、その後釜にエイダンが指名された当初は、その人物像が紹介されるたびに

「ヴァインセントとエイダンの間に血縁関係はない」という注釈が、どこでも判で押したように付された。そういえば近頃、そうした記述を見なくなったが、実績を着実に積み重ねたことで、独り歩きをするのに充分すぎるほど、エイダン・オブライエンの存在と名前が大きくなったと言いうことであろう。

調教師デニス・オブライエンの子息として生まれたエイダンは、幼少の頃から馬を友として育ち、学校を出るとP. J. フィン、J. ホルジャーといった調教師の元で修業の日々を過ごした。91年、調教師J・クロウリーの娘アンマリと結婚。同時にクロウリー厩舎に移籍したエイダンは、間もなくアンマリが調教師ライセンズを取得し、父に代わって厩舎を切り盛りすることになったため、エイダンは厩舎の中で「妻の助手」という、ユニークなポジションにつくことになった。

アンマリは92/93年シーズン、愛国におけるナショナルハントのトレーナーラッキンクで首位に立つという快挙を達成したが、そのシーズン中に第一子(現在のジョセフ・オブライエン騎手)を身籠ったため、93年にエイダンが調教師ライセンズを取得。そして93/94シーズンから3季続けてエイダン・オブライエン厩舎がナショナルハントのチャンピオントレーナーとなった後、エイダンはクールモアにヘッドハンティングされたのだ。

以降、英仏愛3か国のクラシックを55勝。08年には愛国の3歳クラシック独占という73年ぶりの偉業を達成。14年8月に管理馬ディックウィッティングトンでG1フェックスを制して2つ5個のG1を獲得し、通算G1勝利歴代首位に躍り出るなど、エイダン・オブライエン厩舎は至高の戦いを続けている。

そのオブライエン厩舎にあつて、二千ギニーで本命に推されているのが2歳時6戦しG1ナショナルS(芝7F)を含む3重賞を制したグレンイーグルス(父ガリレオ)、ダービーの本命が2歳時3戦しG3ジュヴェナイルターフS(芝8F)を含めて2勝しているジョンエフケネディ(父ガリレオ)、そして千ギニーとオークスの本命が、2歳時3戦しG1マルセルブーサク賞(芝1600M)を含む2勝を挙げているラウンド(父ガリレオ)だ。そして彼らは、グレンイーグルスが昨年のG1愛千ギニー勝ち馬マーヴェラスの全弟、ジョンエフケネディが昨年のG1ヨークシャーオークス勝ち馬タバストリーの全弟、そしてファウンドがG1・2勝馬レッドイヴィーの4番仔という、超良血馬たちである。

ジョンエフケネディやファウンドは、秋の凱旋門賞で日本馬の前に立ちほだかる存在になる可能性もあるだけに、皆様も春の英国クラシックにぜひ注目いただきたい。